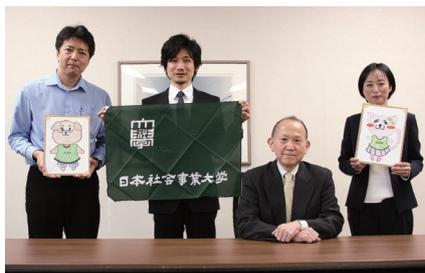




Japan College of Social Work The Alumni Association



社大 同窓会

▶▶▶同窓会母校応援プロジェクト◀◀◀ 全国初『オンライン大学説明会』

10月15日に佐賀県立神埼清明高校の皆さんがオンラインでプログラムに参加しました。参加したのは、同校生活福祉系列の高校生たち42名で、横山学長ら教員から日本社会事業大学で学ぶ社会福祉について、熱心に説明を受けられました。(詳細は3ページ)



2022
vol.89

同窓会×大学
パートナーシップ推進

JCSW 2021年度 日本社会事業大学専門職大学院 福祉実践フォーラム

「地域共生社会の実現とソーシャルワーク実践」

日時 2021年10月2日(土)13:00~16:30
定員 370名【オンライン300名・対面(会場)70名】(先着順)
場所 オンライン: 本学指定のZoom会場ID
対面(会場): 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター2階 sola city Hall

プログラム

13:20 基調講演
「共生保障 誰もが排除されない社会をつくる」
司会: 佐々木 孝
宮本 太郎氏 中央大学法学部教授・福祉実践大学院学長

休憩 10分

14:30 シンポジウム
「今、起こっている問題をどう捉え、どう取り組むのか。」

●シンポジスト
高橋弘美氏 日本社会事業大学福祉実践大学院学長
湯浅利啓氏 社会福祉法人 福祉の未来 代表理事
立岡 学氏 福祉法人ソラシティ・社会福祉事業部 部長

●モデレーター
宮本 太郎氏
●進行
宮島 清氏 本学専任職大学院教員



コロナ対策に十分留意し「パブリックビューイング」で専門職大学院の「福祉実践フォーラム」に参加しました (10月2日(土) 福島県同窓会総会/郡山市)



著者の岸山真理子さん

『ケアマネジャーはらはら日記』



本『ケアマネジャーはらはら日記』



10月

緊急事態宣言が解除。日常の回復への動きが徐々に広がってきました。

2日 子ども学園第57回運動会



大学祭は今春に延期しての実施が検討されています

どのお子さんも元気に参加することができました

4日 大学ボランティアセンター学生スタッフ「1Step」ポラカフェ

東京都のリバウンド防止措置も解除。一定のルールのもと、学内での課外活動の再開が可能となりました。

11月

今年オンラインも

社協×1step ポラカフェ

～学生と地域をつなげる～

コロナ禍の「今」、ちからになれることがある

新型コロナウイルスの影響で、福祉施設でのボランティアや地域の活動団体を取り巻く状況は一変しました。しかし、活動が完全に立ち止まる事はなく様々な工夫をしながら、取り組んでいます。「今」、学生の皆さんにできることがあります。ボランティアを通じて、地域の「今」を知っていませんか。

1 オンラインガイダンス **場所** オンライン
11/4 (Thursday) 12:20～12:50

2 個別相談 **場所** 日本社会事業大学 A棟4階コース教室
11/10 (Wednesday) 12:00～14:30

※個別相談は11/5～11/15の期間で、きよせボランティア・市民活動センター窓口、オンラインでも開催します

1 オンラインガイダンス
ボランティアを行うにあたっての大切なポイントや活動先についてご紹介します。

2 個別相談
福祉・児童分野だけではなく市民活動などの幅広い内容があります。興味に合った活動が見つかります。

3 体験する
希望には活動先をご紹介します。職員や先輩がサポートするので、安心して活動できます。

主催・申込み
●ボランティアセンター学生スタッフ「1step」ボランティアセンターvolunteer@jcs.ac.jp (毎週月・水・金 12時～17時)
●きよせボランティア・市民活動センター ☎042-491-9027

申し込みフォームはこちら
<https://forms.gle/Xx1XPKKppJhDkxm8>

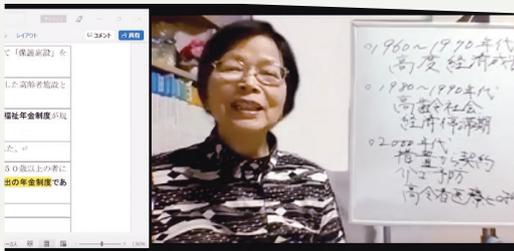
16日～18日 2021年度卒業研究提出(4年)



字数:本文16,000字以上。テーマは、社会福祉関連限定です。

社会福祉士国家試験対策講座(週一講座・4年)

17日 学部5期生(1965年卒)が『社大入学60周年記念文集』発行



今年度はオンライン方式で実施



発送作業日・懐かしい「アガベ像」の前



12月

新しい年に希望を馳せて

2日 学生自治会サークル説明会

8日 社会福祉実習報告会(3年)

全国初

オンラインで大学説明会を開催 佐賀県同窓会と佐賀県立神埼清明高校

【オンライン説明会プログラム】

学長メッセージ
“日本社会事業大学で学
ぶ社会福祉とは？”

学長 横山彰氏



大学・キャンパスライフ
説明、入試概要について

准教授 費川信幸氏

高齢化社会を迎え、社会福祉へのニーズが高まっている今日、福祉に関する制度や介護の知識・技術を学び、介護福祉士を目指している高校生たちがオンラインでプログラムに参加し、大学教員



から日本社会事業大学の魅力やソーシャルワークについて説明を受けました。

【ご担当された生活福祉系列の原慶介先生にお聞きしました】

マスコット
『ピヨこん丸』



Q. 学校紹介

当校の総合学科には、6つの科目グループ、『系列』があり生活福祉系列は介護福祉士国家試験受験資格を取得するコースです。どの科目でも就職から4年制大学への進学まで、幅広い進路希望に合わせるため細やかな指導を受けることができます。

Q. 本校の特色

日頃の学習に加え、部活動や各種コンテスト、ボランティア活動などに意欲的に取り組んでいます。最近では、男子新体操部やハンドボール部、野球部、バトミントン部など運動部の活躍や全国高校生介護技術コンテスト最優秀受賞など優秀な成績を収めています。

Q. 今回オンライン大学説明会を企画したのは？

日本社会事業大学について、その歴史的な経緯も含めて、生徒に理解してほしかったからです。福祉の「東大」である貴学は、佐賀県の大先輩である潮谷義子氏の母校でもあります。福祉を学ぶ在校生の多くが大学でも福祉を学びたいと考えていることか

ら、社大さんとのつながりを求めました。

そのような時、佐賀県同窓会の藤崎支部長に相談させていただいたところ、直ちに大学にコンタクトをとっていただけました。藤崎さんにはこの数年来日本社会事業大学案内パンフレットを直接学校に届けていただいております。コミュニケーションが計られていました。

Q. 開催にあたりご苦労されたこと・良かったと思うこと・振り返ってのご感想について。ご希望・ご意見などをお聞かせください。

藤崎様はじめ、大学当局の大変親切丁寧なご対応で充実した説明会になりました。一度計画していた日程が台風で延期になったにもかかわらず、当初の予定と同じように学長様よりご講義いただき、恐縮しております。



説明会は
■10月15日(金)第6限(14:40～15:30)に実施
■3年生21名、2年生21名及び福祉科教員4名が参加しました。

オンライン大学説明会 募集(無料)

◎全国の高校で開催できますので、お気軽に次の窓口にご相談ください。

大学入試広報課

Tel: 042-496-3080

同窓会事務局

Tel: 042-496-3053



生徒たちからは「そのような歴史と伝統のある福祉系大学があることを知らなかった。」「学費も国公立並みというところに魅力を感じる。」といった感想がでています。中学の段階から福祉を志してきている生徒は輝いています。高校福祉科としては、来年度も継続して何かしらのつながりを頂戴できれば幸いです。

ボランティアセンター学生スタッフ1step



活動目的

- ① 学生目線でボランティアの楽しさを発信する
- ② 学生がボランティアへの一歩を踏み出す架け橋となる

「学生スタッフ1step」って？

大学内にあるボランティアセンターを拠点として、学生スタッフが学内外でのボランティア活動の仲立ち的な役割を担い活動しています。学生スタッフ 1step は各サークル代表・元代表を中心とした学生スタッフの活動が起点となり、2018年に始動してから5年目を迎えようとしています。



トークサロン（サークル説明会）」

毎年学部新入生向けに学内のサークルを紹介する機会としてトークサロンを開催。新入生とサークル関係者、先輩後輩が繋がる機会として学生のニーズも高いイベントです。



(2020年度)



(2021年度)



(2019年度)

「社協×1step ボラカフェ～学生と地域をつなげる～」

ボラカフェは清瀬市社会福祉協議会のきよせボランティア・市民活動センターと共催で行っています。学生一人ひとりのニーズに適した地域ボランティアをガイダンス、個別相談、体験という流れで紹介するイベントです。今年度は新型コロナウイルスの影響がありながらもオンラインと対面を併用し開催することができました。



(2021年度)

コロナ禍以降はオンラインも活用し形を変えながら開催しています。

活動メモ

毎月1～2回のミーティング

学内外でのイベント・ボランティア
学習会 等の様々な活動

これからの活動について

学生スタッフ1stepの活動は学内外・分野を問わず行っており、年度ごと活動に特色があります。またコロナ禍によって、ボランティアやサークルの在り方に変化を感じています。そうした中で改めて「学生のニーズ」に寄り添い、ボランティアの楽しさを発信できるような活動を展開していきたいと考えています！



メンバーは現在 19 名で活動しています！



母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

本学ではボランティア活動が盛んです。様々な分野のボランティアサークルがあり、サークル活動として取り組む学生、または個人での施設ボランティア・キャンプボランティアなど、卒業までに複数のボランティアを経験しています。



ボラセンって どんどころ?

2017年4月、設置を求める学生たちの声に応えるかたちで、ボランティアセンターOpen!

いつ開室?

⇒月曜日・水曜日・

金曜日 12:00～17:00

どこにあるの?⇒研究棟3階

【ボラセンの業務】

★学生のボランティア支援

★ボランティア情報の提供

★ボランティアに関する相談

★イベントや講座の開催

学生スタッフ「1step」と共に、地域の施設や団体と連携してイベントを企画しています。

【コーディネーター配置】

学生の相談に応じたり、ボランティア探しのお手伝いをしたり、ボランティアサークルの活動状況のヒアリングなどしています。

♪お気軽にご相談ください。

ボランティアセンター

知っていますか? ボラセンのこんな活動



◀2018年3月
全国学生ボランティア
フォーラム参加



OBOG交流会▶

コロナ禍により1年8か月もの間、学生の課外活動は休止していました。「1step」もいくつかの企画を計画しては断念せざるを得ませんでした。そんな後輩たちを応援しようというOBOGたちとオンラインで交流しました。新たなイベントのアイデアも!



2019年5月

「教えて!子どもボランティア」▶

地域の子ども食堂・学習支援団体の皆さんとワークショップを開催



▲2019年5月東久留米子どもまつり出展

1Step先輩方からのメッセージ

「1stepでの思い出」

馳 天心さん(学部61期)

「教えて!子どもボランティア」これは学生が企画、運営、実施の主体となり、大学生のボランティア参加の第一歩を応援しよう!というものでした。

メンバーの中心として動く中で悩みや葛藤、難しさも多々ありましたが、活動の日々が何よりも楽しく、充実していて、一体感や達成感を感じました。このような1stepの活動の日々が今の自分を作り上げているんだなぁと最近実感しています(笑)楽しい日々をありがとうございました!!

「ボランティアと私」

長谷部裕美さん(学部58期)

私は学生時代に、学内のcocoaという団体で被災地支援をしていました。その団体にいた先輩方が、他校との交流会や個人でのボランティアに誘ってくださいました。最初は「誘われたから」といった理由でしたが、そこから徐々に活動の幅が広がっていったように思います。

ボランティアを始めるのに、明確な動機は必要ないと思います。興味があると思ったら、その気持ちを大切に、まずはチャレンジしてみてください。

「在学生の皆さんへ」

大須賀史紀さん(学部61期)

みなさん、ボランティアにはどんな印象がありますか?実際コロナでボランティアなんてやったことないから知らないよって方が多いかな?でも、ボランティアって簡単なことなんです。隣にいる人(友達や家族、知らないおじさん、先生など)に少し手を貸すことかなって私は思っています。だから些細なことでもいいんですよ。

私がボランティアセンターに入って学んだことは、自分も誰かに支えられているんだなってことです。だからこそ私も誰かに少しでも恩返しと思ひ、小さなボランティアをしています。皆さんも小さな1歩踏み出して小さなボランティアしてみませんか?

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

JCSW ネットワークを広げよう

福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会

福祉現場の経験豊富な先輩達が、在校生をサポートしました



同窓会長メッセージ

この交流会は、これまで大学社会福祉学会との共催で実施していましたが、本年度は「同窓会の独自企画による初のオンライン開催」としました。参加施設は、17法人・延26施設(高齢9施設、障がい13施設、児童4施設)で、在校生1~4年生・延べ195人の参加となりました。ご協力いただいた多くの参加団体・在校生の皆様とコーディネートの有村大学准教授に心よりお礼を申し上げます。

同窓会は、今後とも母校との連携をさらに強化し、社大教育と実践をしっかりつないでいきます。

同窓会会長 岩崎俊雄

社大在校生の皆さんが、これからどのような福祉分野で仕事をしていきたいのか、キャリアアップ作成の手掛かりにいただくため、同窓会企画によるOB・OGとの交流会(2021「就活・全国フェアin社大」)を『初のオンライン』で開催。実施

時期は、概ね6月~8月の参加団体と学生の都合がよい日程で。



【参加された先輩達からの“ガンバレ社大!!”メッセージカード】

社会福祉法人 南奈聖外院



画面越しでのやり取りになることで不安を感じましたが、学生の皆さんが熱心に聞いてくださったおかげで、有意義な時間となりました。新型コロナの影響で思うようなキャンパスライフを送ることの出来ない日々かと思いますが、頑張ってください。(丹直道様:学部57期)

日本赤十字社 日本赤十字社総合福祉センター



オンライン交流会が、在校生の皆さんにとって少しでもお役にたてていたら嬉しいです。私にとっても、学生時代や働き始めた頃のことを振り返ることができて、貴重な機会になりました。学生生活や就職活動は大変だと思いますが、頑張ってください!(権田彩花様:学部56期)

社会福祉法人 武蔵野



一方通行なやり取りでなく、双方にコミュニケーションを図ることができ、我々も強みへの気づきや学生の志に感化され、いい機会になりました。コロナ禍で行動制限がありアクションしにくいですがまずは1歩踏み出してみてもいいと思います!(木引大輔様:学部53期)

社会福祉法人 すぎのこ会



卒業から50年、校舎は原宿から清瀬へと移りましたが、「福祉の理論を極め、福祉の実践を大切に」という建学の精神は今も引き継がれていると思います。皆様の豊かな感性と新しいスキルをもって「さあ、一歩踏み出してください。」(岩崎操様:学部10期)

貴重なご意見や質問をいただいたことで、改めて自身の仕事がどのようなものなのかを振り返る良い機会となりました。福祉職を通して、またお会いできることを楽しみにしております。(すぎのこ会 みずほの家 菅谷直輝:学部59期)



在学生との交流を通して、改めて一年前の私はどのような「福祉」を目指していたのか思い返すことができました。オンライン上では、在校生が望むような交流ができたのか不安ですが、自分が今現在どんな気持ちで働いているのか、少しでも伝わればいいなと思いながら参加しました。

(すぎのこ会 支援主事 荻原優衣:学部61期)



交流会を通じて仕事や福祉に対する思いを振り返ることができ充実した時間を過ごせました。また、学生の頃の気持ちを思いだし初心を忘れず努めていかなければと改めて思いました。コロナ禍で大変な状況にありますが諦めずに勉学に励んでください。応援しています!

(すぎのこ会 ひのきの杜 川田良美)

同窓会「五味基金」による学生支援奨学金について

昨年11月から2022年度母校社会福祉学部の入試が始まっています。この奨学金は、本同窓会の「五味基金」から学部入試において日本社会事業大学に入学する新入生に対し、1名につき50万円を奨学金として支給する奨学金事業です。

助成基準は、「児童養護施設に入所されている児童」が対象となります。(同窓会支部からの推薦に基づき、同窓会役員会で審査・決定)社大入学予定者で候補者がいる場合は、同窓会事務局に電話等で連絡・相談ください。

【お問い合わせ】 日本社会事業大学同窓会 TEL:042-496-3053 E-mail:kouyu@jcsu.ac.jp

社大教育と実践を しっかりつないでいこう!!

■8月3日

母校の教育支援プログラム贈呈式

コロナ禍における母校の学生教育支援プログラムを支援するため、同窓会から大学の支援プログラム“主に福祉現場へ実習に行く学生と寮生のPCR検査の費用等”に対して120万円を助成しました。(2021年度同窓会予算「コロナ学生支援費」から支出)



左から
岡本同窓会副会長、
岩崎会長、
名取大学理事長、
横山学長

■6月26日

同窓会幹事会(書面決議・オンライン併用)

同窓会／岩崎会長ほか16名、大学／横山学長、神野前学長が出席



第1～4号議案／2020年度事業報告・決算報告、2021年度事業計画(案)・予算(案)審議・承認(書面決議21名、オンライン出席13名)

■11月28日

第2回運営委員会・事務局会議

同窓会活動の現状と事業活動の課題外以下の項目について意見交換と情報共有を行いました。

■同窓会と大学のパートナーシップ推進について

■福祉現場で活躍するOB・OGとのオンライン交流会

■本年度の相談援助演習など



日本社会事業大学社会福祉学会(木田)賞について

大学社会福祉学会では、社会福祉の理論研究及び実践の奨励をはかることを目的として社会福祉学会(木田)賞を設けておりますが、今般この公募要領が改正され、学会事務局での募集・推薦(応募締切:3月31日)が行われています。

(この応募に際しては、学会事務局「TEL:042-496-3050、E-mail:swri@jcs.ac.jp」までご相談ください。)

＝『学会(木田)賞』の改正内容＝

【実践賞】⇒従前との通り

多年にわたる優れた社会福祉の実践者。

長年に渡る現場実践を評価。

【文献賞】⇒廃止

【実践奨励賞】⇒新設

先駆的・独創的あるいは困難者の高い社会福祉の実践者。「制度の谷間」にある問題や複合的な問題など、既存の制度の枠組みにとらわれないような現場実践を評価(または、その実践を継続することにより優れた実践が期待される実践者)。実践期間は現場経験が概ね～20年以内。

卒業生が書いた本プレゼント 抽選で10名様に。

岸山真理子さん(研究科53期・1999年卒)の最新著書『ケアマネジャーはらはら日記』(三五館シンシャ、2021年7月発売、四六判208ページ)をプレゼントします。

ベストセラー【日記シリーズ】アマゾンの福祉関係書籍で発売から1カ月、1位を維持!!

実話の生々しさ ～当年68歳、介護の困り事、おののきながら駆けつけます～

47歳から現在までケアマネを続ける著者による奮闘の記録。

・「こんなへボマネ、見たことねえぞ!」・ケースワーカーの生活保護”水際作戦” etc.



大学ブックレットプレゼント

生協で販売している大学ブックレットシリーズから

木戸宣子さん著『病院退院計画から地域ケアへの展開に向けて』(2011年、B6版72ページ) 抽選で5名様に。

保健医療分野で働くソーシャルワーカーに一読をお勧めしたい一冊。
《千葉県出身。学部29期。日本社会事業大学専門職大学院教授・同窓会監事》

〒住所・氏名及び「はらはら日記」と「ブックレット」の希望別を次のあて先までご連絡ください。

〈郵便の方〉 〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30
日本社会事業大学同窓会

〈FAXの方〉 042-496-3051

〈E-mailの方〉 kouyu@jcs.ac.jp

同窓会費納入にご協力を

新型コロナウイルス感染症の長期化は、在校生の学生生活にも多大な影響を及ぼしています。大学では昨年度の後期授業から分散通学とオンラインによる授業が行われておりますが、東京都の緊急事態宣言等が解除されたことによりサークルなど課外活動も一定のルールのもと再開が可能となりました。同窓生の皆様には会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき、同窓会の学生教育支援プログラムなどへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



同窓会会長 岩崎俊雄

(終身会員制度について)

2011年度から「終身会員」(5万円)が設けられ、納入時満年齢60歳以上の方は、「年会費」と選択ができます。「終身会員」として納入される方は、郵便局・ゆうちょ銀行の払込取扱票と払込書兼受領証の金額3000を2本線で抹消し上段に50000と訂正し、「認印」を押して下さい。コンビニエンスストアではお取り扱いできません。

目の前のひとりのために力を尽くす



岸山真理子
(きしやま まりこ)

研究科53期
(1999年卒)

1953年9月19日静岡県清水区生まれ。早稲田大学第2文学部卒業後、単純労働の現場を渡り歩く。1984年第1回早稲田文学新人賞受賞。1999年日本社会事業学校研究科卒業。2001年3月よりケアマネジャーとして働く。2009年ボランティア劇団「松竹梅」を主宰。地域包括支援センターを定年退職後、現在、狭山市のNPO法人チャのみ倶楽部の居宅介護支援事業所に勤務。2021年7月「ケアマネジャーはらはら日記」(三五館シンシャ)を上梓。

ルポルタージュ

ケアマネジャーのお仕事に関わられていますか、実際の仕事内容は？

2000年4月1日、介護保険制度の創設に伴い、ケアマネジャーという職業が誕生しました。私は第2回目の試験を受けて合格しました。利用者や家族の希望を反映した

ケアプランを作成し、介護サービス提供事業者や医療機関と連携して利用者の介護度の重度化を防ぎ、自立を支援する。居宅介護支援事業所のケアマネジャーの基本的な業務は22年前の発足当時と今も変わりません。

けれども、利用者を取り巻く社会情勢は複雑化し、ケアマネジャーが求められる役割は年々増大してきています。

私は地域包括支援センターで10年働きました。息子の暴言から逃れて1日中戸外をさまざまに過ごす母親。団地の部屋をゴミ集積所から収集したゴミでいっぱいにしてしまう男性。家賃を滞納し立ち退きを迫られ、途方に暮れる父親と働き口のない息子。センターに寄せられる相談はどん底状態であえぐ人びとからの生死をかけた叫びに満ちていました。

私は行政や法律家に相談をしながら助かる方法と光明を見出すことに力を振り絞りました。

現在は居宅介護支援事業所で働き、ゴミ屋敷の掃除をしたり、徘徊する利用者さんを探したり、地域包括のときと同様に切羽詰まった対応に明け暮れています。

社大研究科受験とケアマネジャーを目指した理由

私は学習障害とADHDの傾向を持っていたので、小学生時代は授業に付いてゆけませんでした。尋常小学校しか卒業していない母が毎日、付きっきりで勉強を教えてくださいました。

アルバイトで生活費を稼ぎ、大学

の夜間部を卒業したあとは、単純労働の現場を転々とした。どんな形であれ、社会参加し、働き続けることが私の課題でした。

38歳での出産を機に正規職員の仕事を始め、老人病院の介護職員になったのです。

働きながら京極高宣先生が開設した通信制のNHK学園・社会福祉コースで学びました。

介護福祉士の資格を取得後、社会福祉士を目指し、休職して日本社会事業学校研究科に入学しました。



同居していた母は肝臓がん末期でしたが、「40歳過ぎてやっつ、勉強が好きになったんだね」と喜び、私を支えてくれました。

大学を卒業したばかりの若い同級生たちと机を並べることが新鮮で刺激に満ちていました。

介護保険法施行まで2年に迫ったある日の授業のことです。中島健一先生が、ケアマネジャーの仕事の内容について説明してくださいました。

「自分が担当する高齢者たちの家に毎日、毎日、訪問し、利用者さんにとって大切な情報や知識を届け、最も頼りになる身近な援助者になります」中島先生の言葉に心を揺さぶられました。

3年後、私はケアマネジャーにな

り、突然、介護が始まって戸惑う高齢者と家族の生活を整えていくことに必死になりました。今、自分の目の前にいる人のために最善を尽くそう。

その思いで21年間、ケアマネジャーを続けてきました。

卒業後の私の経歴。さまざまなことにチャレンジしてきましたね。

研究科では若い同級生たちとグループごとに活動しました。研究した内容をコント仕立てにして授業で発表したのはとても楽しい試みでした。

その経験がもたくなって、地域包括支援センターの主任ケアマネジャーをしていたとき、私は地域の皆さんに呼びかけ、ボランティア劇団「松竹梅」を結成したのです。介護予防や地域のネットワーク作りなどを題材にした脚本を私が書き、皆さんと一緒に演じました。

一昨年、コロナ禍で介護業界は激動の日々でした。チームで働く介護職員や看護師、福祉用具専門相談

員が奮闘する姿を記録に残したいという思いが突き上げてきて、私はペンを取りました。高齢者が汗水流して働く日記シリーズを刊行している三五館シンシャに原稿を送り、「ケアマネジャーはらはら日記」という本にさせていただきました。

今後の活動と抱負などについて

小学校で困っている子どもたちの姿は自分と重なります。苦しんでいるお母さんたちを当事者の立場から応援するボランティア活動をしたいです。

単純労働現場を転々としていた若いころ、貧困女子だった私は、女性の貧困問題にも強い関心があります。高齢女性が働ける場を作る運動に取り組みたいとも思います。文章修業に励み、底辺で生きる人びとの気持を代弁できる力量を身につけることにも情熱を傾けていきたいです。

在校生の皆さんへのメッセージ

私たち現場で働く者たちが見つけ出した福祉の課題を若い皆さんに引き継いで行っていたらいいです。政策立案と制度改革に向けて活躍してほしいと期待しております。

社大で勉強したことを実践で生かし、ネットワークを張り巡らせて、困難の中で自立を求めて生きる人びとを力強く支援していきましょう。

